

地域医療

あがの市かわら版

第18号

新潟大学医学部「健康講座塾」好評の12回が終了!!

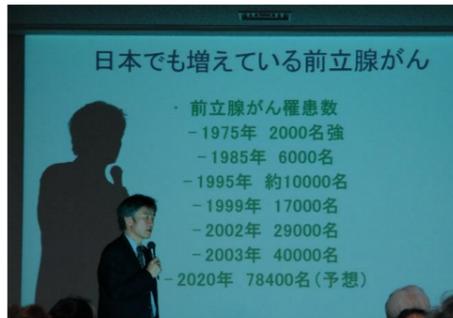
あがの市民病院を会場に今年1月から2月にかけて次の健康講座塾が開催されました。

- 1月26日 消化器内科講座 『消化器疾患の診断と治療』 寺井崇二教授
- 2月23日 泌尿器科講座2 『増えています。前立腺の病気』 富田善彦教授

富田善彦教授 どちらもガンを中心とした疾患の正しい知識がわかりやすく解説され、最新の治療法



寺井教授



富田教授

も紹介されました。「医療技術の進歩に驚き、心強く事かがよくわかった。早期発見・早期治療ですね。」等の感想が聞かれました。昨年6月からスタートした健康講座塾は、今年度延994人の参加で、好評な中終了しました。新潟大学医学部健康講座塾は、29年度も引き続き開催する予定です。



あがの市民病院敷地内の 子育て支援センターにこここ 1周年祭

糖尿病予防講演会 「もっと糖尿病について知ろう」

1月24日(火)水原保健センターで、あがの市民病院 糖尿病・生活習慣病予防治療センター 藤原和哉医師(新潟大学医学部総合研究科 准教授)を講師に招き、糖尿病予防講演会が開催されました。当日は135人の市民が来場し、関心の高さがうかがえました。



藤原准教授の講演

参加者からは、「食べ物の中の糖の量がよくわかった。思っていたより多くて驚いた。」「糖尿病をあまり見えていた。食事療法、運動療法をもっと意識していきたい。」「生活を意識すれば、糖尿病は怖がらなくていいことがわかった。」「自分自身でコントロールし、健康寿命を延ばすのが目標。」などの感想があり、正しい知識を得ることで、生活習慣の改善を実行しようと思った方も多かったです。あがの市民病院の糖尿病・生活習慣病予防治療センターに受診してみようか、という声も聞かれ、病院を身近に感じられる機会にもなりました。

認知症を理解しよう

2月25日 阿賀野市多職種連携研修会

平成26年度から開催し、7回目となる多職種連携研修会。今回は、「ひもときシートを活用した認知症ケア」をテーマに開催され、阿賀野市内の、歯科医師、薬剤師、看護師、訪問看護、ケアマネージャー、ヘルパー、特養職員など、101名が参加しました。

に皆さん集中して取り組んでいました。

参加者からは、「初めて使ったが、ぜひ職場でひもときシートを活用したい。」「他職種との考え方や気づく視点の違いを感じ、多職種で連携することの大切さを学んだ。」という声が聞かれ、認知症の理解を深めながら連携を考える貴重な機会となりました。

講師のクラレテクノ株式会社 チューリップ苑 副苑長 新野直紀氏による講義を受けながら、グループワークを行い、事例のケースが望むその人らしい生活を送るために、どのような支援が必要か、意見交換を行いました。



新野氏の講義



3月上旬、結桜(ゆいさくら)と呼ばれる不思議な桜がエントランスホールに飾られ、病院を訪れた人の目を惹きました。この桜は、最初は白い花が咲き、4日ほどで次第にピンクに変化する特徴を持っていて、花を育てている市民の好意で展示されたものです。さらに、敷地の一角には、樹齢約6年で樹高4m程の結桜が寄付され、こちらは早ければ今春には開花するのではないかと見られており、病院の関係者も注目していました。